

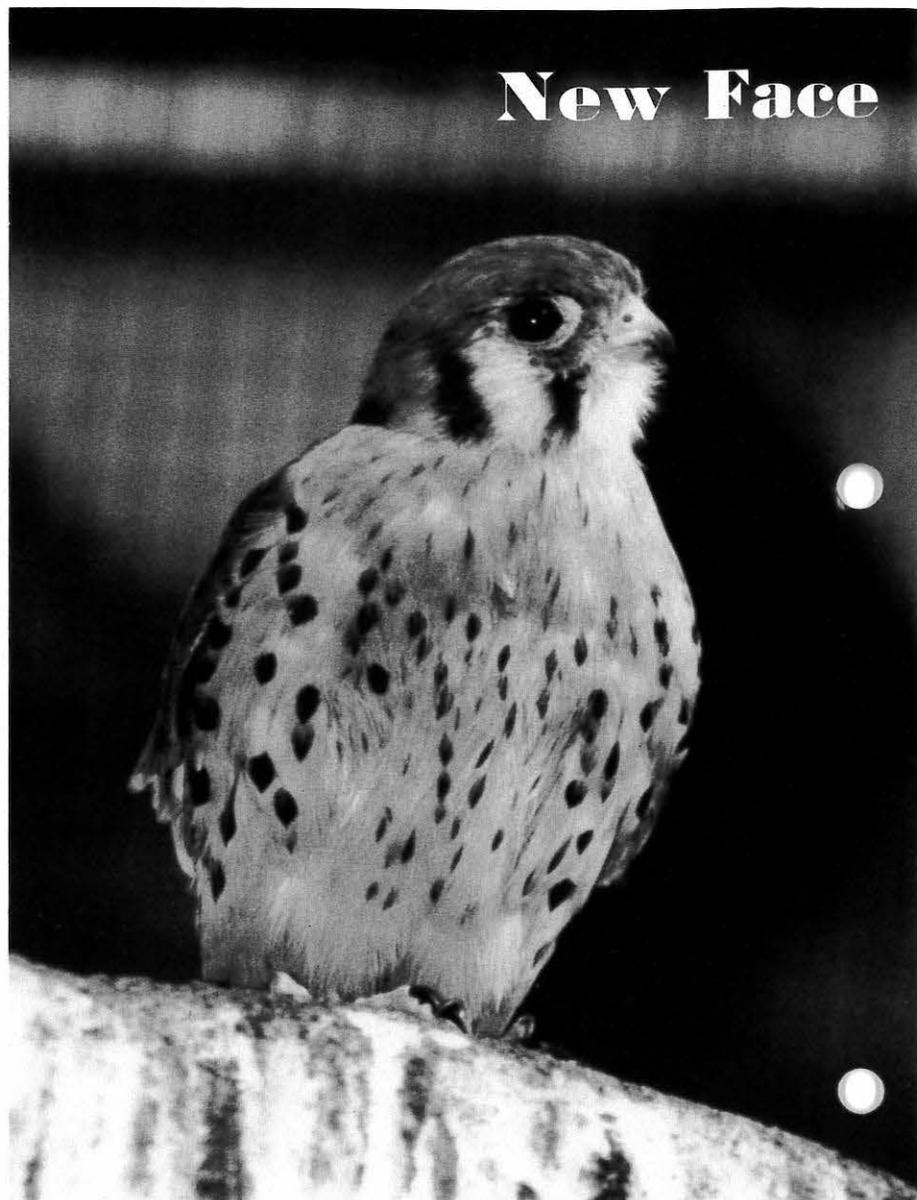


なきごえ



1994

2



New Face

(撮影：中川 哲男)

- 2 — New Face アメリカチョウゲンボウのお目見え
- 3 — 動物と私 森のガイドになって(南 正人)
カバーウォッチング ベニイロフラミンゴ
- 4 — 鳥たちの“利己的”社会(上田 恵介)
- 6 — 浪速で開催された第6回
種保存委員会拡大会議(宮下 実)
- 8 — グラフZOO 冬はカモたちの季節
- 10 — 獣医室から㊦白内障が治ったぞ(宮下 実)
- 11 — ZOO DIARY

カバーウォッチング

ベニイロフラミンゴ
フラミンゴ目 フラミンゴ科
Phoenicopterus ruber ruber
長い足と首、あざやかな羽色のフラミンゴは動物園ではなくてはならない鳥です。その中でも南アメリカに分布するベニイロフラミンゴはひときわあざやかな紅色をしています。
(撮影：堀内 智生)

||||| 動物と私 |||||

— 森のガイドになって —

朝、目覚めると家のすぐ横を流れる湯川の川音とともに、カワガラスのピッ・ピッという声がひびいてきます。庭にはウソが来ているらしく、口笛のような声が聞こえてきます。吐く息は真白で、外は氷点下の世界です。目の前の浅間山も白く凍りついて、朝日に輝いています。都会生活の経験しかない私にとっては毎日が新しい世界です。

大阪での長い学生生活に終止符を打ち、昨年4月から長野県軽井沢・星野温泉リゾート野鳥研究室で働き始めました。隣接した「野鳥の森」では、四季を通して多くの野鳥を見ることができます。カモシカやツキノワグマ、リス、テンなどもこの森で生活しています。この森や浅間山をガイドしたり、自然を楽しむいろいろな企画を作ったり、動物の調査をしたりするのが毎日の仕事です。

お客さんと一緒に凍てついた森を歩くと、長靴を通して雪の冷たさを感じられます。しかし、雪の上には点々とウサギの足跡が続いています。それを追っているのか、キツネの足跡も続いています。ある斜面にはリスのおびただしい足跡がついています。人がやってくる前にドングリでも探していたのでしょう。時には、目の前に赤い胸の美

アメリカチョウゲンボウのお目見え タカ目 ハヤブサ科

一昨年来園しましたが展示ケースの都合で昨年の秋から展示を開始しました。ハトぐらいの大きさの可愛い猛禽です。猛禽舎でペアで展示しています。



南 正人 さん

(星野温泉リゾート野鳥研究室)

しいベニマシコや背中の子いりビタキが飛び出したりします。そんな時はお客さんも大喜び、こちらも興奮してしまいます。冬は野生動物たちに近づける一番良い季節のように思います。

森を切り開いてリゾートを造るのではなく、森を残して、自然を守りながら、自然を感じ、自然を楽しめる新しいリゾートを創ること、野生動物とのふれあいの場を創ること、それが私の仕事です。かわいい野鳥と出会ったり、野生のけものを探したり、樹々の息吹を感じたりする楽しさをもっと多くの人と共有できれば、森の価値は今よりもっと高くなって行くと思います。森は「木の畑」ではなく、生命にとって不可欠なものです。経済的な価値も含めて、森そのものの価値を高くすることが、森を守る一番の方法だと思います。私の仕事がそれにつながれば幸いです。

秋には、私自身の研究のフィールド、宮城県牡鹿半島の金華山島が待っています。150頭の野生ニホンジカに全部名前をつけて調査を始めて5年になります。毎年発情期に2ヶ月間調査を行ってきました。やっとなわばりを持たずに非業の死をとげた雄「メキ」、初めての仔「ナベ」を産んだ年に死んだ若い雌「オタマ」、たくましく生きているみなしご「ハコ」。私にとっては家族のような存在です。5年間の最も大きな成果は、シカは性格も行動も1頭1頭かなり個性的で、今までのような「平均値の学問」では彼らのことは解らないということでした。1頭1頭の生き方を視野にいった研究を今後も続けたいと思っています。

よちよち歩きの頃から毎日祖父に連れられて2Km離れた京都市立岡崎動物園に通っていた少年は、今も動物から離れられない毎日を過しています。
(みなみ まさと)

近年、世界的に動物の行動学、社会学、生態学の研究が大きく発展しつつあります。動物の行動や社会も、その基本的な部分は遺伝子によって支配され、自然選択を受けて適応的に進化してきたものであるという考え方の上に立っています。そこから動物の様々な行動や社会は、その種(または集団)を構成する各個体が、種全体の利益ではなく、自分自身の利益(適応度)を最大化しようとする戦略の上に成立しているのだという見方が出てきます。一見、協調的にみえる行動も、その中身は個体間の利害の妥協点だというわけです。こうしてこれまで漠然と種のために行動していると考えられていた動物たちが、個体の利益にもとづいて、その社会に対立と協同を生み出すのだという見方が確立してきました。

繁殖生活や配偶行動にしても、親子、オスメス間にどんな利害があるのだろうかという立場から、社会生物学者は対象を観察します。それが契機となってこれまで見過ごされてきた行動、一見、異常な、頻度の低い行動も個体にとっては適応度を増すためのものではないかという見方が定着し、鳥たちのいろいろな面白い社会行動、社会システムが見つかり、説明困難だった問題に解答が与えられてきました。

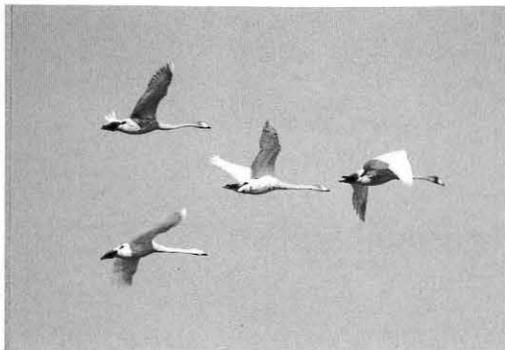
いろいろな面白い発見があります。ここでは、離婚、浮気(つがい外交尾)、子殺しなど、一見、人間世界の出来事かと思われるような現象について、世界の第一線で行なわれているこの分野の研究を紹介し、鳥の社会の面白さをお伝えしようと思います。

オシドリも離婚

結 婚式のスピーチによく出てくる言葉に「エンオウの契り」というのがあります。エンオウとは鴛鴦と書いてオシドリのこと。オシドリは大変に夫婦仲が良く、たとえつれあいが狐師に撃たれても、もう一方の鳥は逃げずにその場に留まるという言い伝えからこの言葉がうまれました。オシドリに限らず、鳥たちの世界では圧倒的に一夫一妻を守る鳥が多いと言っていることになっています。イギリスの故デビッド・ラック博士によると世界の鳥の92%が一夫一妻だそうです。私たちが身近にみるこ

とのできるスズメやツバメやムクドリも、基本的に一夫一妻で、ヒナを育てています。

ところで一夫一妻という言葉の響きには、暗黙の内にそれが生涯にわたって続くというニュアンスが含まれています。たしかに私たちの社会では多くの夫婦は生涯にわたって一夫一妻関係を守ります。鳥の世界では一夫一妻といってもさまざまです。けれどツルやハクチョウなど大型の鳥は寿命も長く、いったんつがいをつくると、一生つがい関係を継続させる種類が多いです。一方、寿命の短い小鳥類では、数年間はつがい関



オオハクチョウなど大型の鳥は生涯にわたるつがい関係をつづける

係を続けるものもありますが、一繁殖期だけつがいできて、翌年の繁殖期には別の相手とつがいをつくるものや、1回の繁殖ごとにつがい相手を変えるものが多くいます。こうなってくると離婚、再婚の繰り返しです。

さらに繁殖中の巣が天敵に襲われたりした時には、たいてい離婚が起こります。その時、出て行くのはメス。天敵に襲われるような危険なわばりを持っているオスからはさっさとおさらばして、別のオスのところへ行って再繁殖する、というのがメスの戦略のようです。

ところでオシドリはどれかという、実は毎年、つがい相手を変えているらしいのです。繁殖期のつがいは秋になると解消され、冬の間群れの中でまた別の相手を見つけてつがいをつくるというのが、オシドリの生き方です。結婚式のスピーチでは「鴛鴦の契り」は使わない方がよいようです。

浮気=つがい外交尾

それがどんなに短い期間であれ、一夫一妻であれば、夫婦はその期間はずがいの絆を守り続けるとこれまで考えられてきました。ところが人間社会と同じように鳥たちの間でも、浮気や不倫の問題が起きていることがわかってきたのです。ただし科学論文では浮気とか不倫という言葉を使うわけにはいきませんから、オス・メスがつがい相手以外の個体と交尾する状況をあらわすために、つがい外交尾(EPC)という言葉がつけられました。

農水省鳥害研の藤岡正博さんはアマサギの配偶

関係に関して、計500時間にもわたる詳しい観察を行ないました。それによると、この観察期間中



集団繁殖をするアマサギではEPCの危険も高い

に一夫一妻のつがいをつくっていたメスは4回から最高49回、平均して1羽のメスあたり約20回のEPCをつがい相手以外のオスから試みられていることがわかりました。

EPCが起これば、当然、その結果として生まれたヒナたちの中に父親の異なるヒナが混じることとなります。個体の持つDNAは指紋と同じで、すべて異なっています。しかしどの個体も、そのDNAの半分は父親から、半分は母親からももらったものです。そこで最近、DNAを調べるフィンガープリント法という手法が開発されました。子供とその両親のDNAを調べると、親子判定ができるというわけです。

日本ではこの手法で確かめられた例はモズくらいしかありませんが、欧米では多くの種類の鳥で、



モズでもDNAフィンガープリント法によって、EPCの事実があらかになった

親子判定が行われ、表面上は一夫一妻でも、同じ巣のヒナの中に父親の違うものが混じるという現象は、そう珍しいものではないということがわかってきました。

子殺しが起きるわけ

子殺しといえばライオンやインドのハヌマンラングールが余りにも有名です。ライオンやハヌマンラングールでは新しいオスが群れを乗取ると、その群れにいる赤ん坊をすべて殺してしまいます。なぜなら赤ん坊がいるとメスは授乳の

ために発情せず、オスはいつまでたっても交尾できないからです。交尾できないと子孫を残せません。マゴマゴしているとまた別のオスに群れを乗取られてしまいます。そこでオスは子孫を残すための手っとり早い方法として、子殺しに手を染めるのです。

けれどほ乳類では子殺しを行うのは普通、オスに限られています。一方、鳥類ではオスにもメスにも子殺しがおこることが最近次々と報告されています。

中米パナマのイエミソサザイでは繁殖の途中における配偶相手の交代がかなり頻繁に(13%)おこり、この配偶相手の交代が起こった時に、子殺しが起こることがわかりました。

熱帯で繁殖する多くの鳥は、土地に対する定着性が強く、しかも年生残率が高いことが知られています。ということはなわばりの空きが少なく、のんびり待っていたのではいつまでたっても繁殖ができないことになります。子殺しはこうした状況下で、若い個体が早く繁殖に入るための、ひとつの強硬手段なのでしょう。

イエズメはヨーロッパから広くユーラシア大陸全域で日本のスズメの地位を占めている鳥ですが、最近、このイエズメが子殺しをししていることがわかりました。スペインのヴァイガ



イエズメではオスもメスも子殺しをする事実が知られている

さんが211個のイエズメの巣を観察したところ、そのうち少なくとも9%、多いときには12%もの巣で、子殺しが起こっていることを発見したのです。かれらはなぜ子殺しをするのでしょうか。

オスの場合、つれあいをなくした個体が他の巣の子どもを殺してしまうらしいのです。するとその巣のメスはこのオスとつがいになって、次の繁殖を行なうのです。母親は自分の子どもを殺したオスと再婚するわけですが、メスの方も、たとえばオスが一夫二妻になった場合、あとからつがいになった第二夫人(?)が、第一夫人の子どもを殺すらしいのです。

子殺しなどと言うと、ごく特殊な種類の動物でしか起こらないと思われていたのですが、決してそうではなく、我々に身近な鳥で、しかも稀れならず起こっているらしいことを、最近の研究は明らかにしています。(うえだ けいすけ)

浪速で開催された第6回種保存委員会拡大会議

昨年10月14、15日、大阪市と日本動物園水族館協会（以下、日動水協）の共催で第6回種保存委員会拡大会議を市内のホテルを会場にして開催しました。種保存委員会とは、絶滅の危機に瀕している希少な野生動物を飼育下でなんとか繁殖させ、その種の保存を行っていかうという目的のもと、日動水協の下部組織として1988年に発足したものです。毎年一回、全国の動物園、水族館の専門家が集まり、それら希少動物の繁殖計画を討議することになっており、6回目の今回は天王寺動物園の担当ということで、1年前からこの開催準備を進めてきました。といいますが、この会議は日動水協の主催する会議の中では最多の出席者を迎えるものであり、さらに日動水協の総裁である秋篠宮殿下はこの種の保存に格別のご関心をお持ちで、ご臨席が予想されていたからです。

今年の4月に殿下のご予定も決まり、会場の選定も終え、動物園内部で準備委員会を設けて会議運営の作業を進めてきました。日程調整、会場設営、視察コースの選定、さらには市長室秘書課との連携、大阪府庁、大阪府警への挨拶、説明など、業務は山積しており、2週間毎に準備委員会を開いて、進捗状況の報告、問題点の整理、今後の対応などを話し合ってきました。日程案のできあがった8月末に秋篠宮家へご説明に伺いましたが、その日はちょうど台風11号の関東地方直撃の日で、都内のJR、地下鉄はほとんどが壊滅状態となり、暴風雨の中、ずぶ濡れになって宮家にたどり着きました。殿下の日程は“分”刻みで作成するのですが、細かい日程変更が時には毎日のように生じ、関係先への連絡調整にも追われました。ところが会議開催が近づいてきた10月6日、シンガポール、インドへ出張することになり、会議運営、日程調整などに私自身、最初から携わっていただけに、この会議直前の離脱は大いに気がひけました。インドでの国際シンポジウムをあわただしく終え、日本に戻ってきたのは会議前日の13日の夕方でした。

全国の動物園、水族館から200人を越える専門家が集まる会議だけに、我々事務局側も前日から泊り込み、配布資料の袋詰めやら日程の再確認、会場点検などで多忙を極めました。私も空港からホテルへ直行し、そのまま3日間、ホテルに泊り込むことになりましたが、体調が今一つのまま、当日を迎えました。

第一日目は受け付け、会費徴収、登録、資料配布、会場設営、宿泊確認、写真記録、進行、計時

とそれぞれの担当に分かれて会議の運営に取り組みしました。午前10時から受付を開始しましたが、北海道から沖縄までの56動物園、37水族館、12機関、合計235名の出席者で、広い会場もみるみる人で埋まっていきました。10時30分、当園の中山



会議受付

所長の司会で開会し、日動水協の増井会長、大阪市建設局の佐々木局長の挨拶に続き、来賓の環境庁の野口野生生物課専門官、文化庁の池田文化財調査官の挨拶があり、2日間の会議のオリエンテーションで午前中の日程を終えました。

午後からは8つの部会に分かれた類別調整会議が行われました。①有袋類・霊長類、②食肉類、③有蹄類、④海獣類、⑤鳥類I、⑥鳥類II、⑦両生類・魚類、⑧種保存委員会の8つで、出席者全員がいずれかの部会に参加し、それぞれの類別会



会場風景

議で対象となっている種についての繁殖計画や問題点を討議しました。

コーヒーブレイクの後、日本で特に報告の必要な8種の希少動物の種別繁殖計画が行われました。

まずトップバッターとして私がシオザルの報告を行いました。シオザルについてはこの6年間順調に飼育数、繁殖数とも増加してきており、来米米国の動物園から国際協力の形で13頭のシオザルの提供を受ける予定であり、その配分と将来構想を中心に話をしました。2日前にインドのマドラス市で開催されたシオザル国際シンポジウムで議題となった飼育下のシオザルの国際的な繁殖計画、野生下での概要など非常に新鮮味のある話題も提供することができました。

この後、ゴリラ、キツネザル類、レッサーパンダ、チーター、カリフォルニアアシカ、ゼニガタアザラシ、クロサイの繁殖計画について、それぞれの種別繁殖調整者から報告が行われました。ゴリラなどはつい2年前までは計画を作ることさえ困難だったのが、今や移動が実現に移されており、繁殖計画がやっと軌道に乗る段階にきたといえま

しょう。夜の歓迎レセプションには主催者側を代表して西尾市長、黒田市会議長も出席し、秋篠



園内ご視察中の殿下

宮殿下ご臨席のもと盛大に催されました。終宴後、さらに殿下を囲む会がもたれ、動物園、水族館関係者とのご歓談の一時が続きました。殿下はこの日の午後天王寺動物園をご視察されましたが、生態展示を試みた新しいチンパンジー・オランウー



コアラのご説明を受ける殿下

タン舎や初めて実物をご覧になるキーウィなど、大変ご興味を持たれたようです。またコアラ館ではコアラを間近でご覧になり、実際に触っていただきました。ニワトリの祖先とされるセキショクヤケイに関心を示され、DNA解析のために血液をご希望されるなど、学者としての殿下の側面もお見せになりました。

一日目は午前9時から始まり、7種の希少動物、ニホンカモシカ、ニホンイヌワシ、エゾシマフクロウ、フンボルトペンギン、オオバタン、アジアアロワナ、日本産希少淡水魚の繁殖計画が昨日に続いて報告されました。エゾシマフクロウは現在飼育下でわずかに8羽のみであり、野生での生息環境が荒廃著しいことを考えるなら、緊急にその保護増殖を図っていかねばならない種でしょう。

希少動物の繁殖計画は昨日の8種と合わせ計15種の報告が行われたわけで、計画が軌道に乗りだした種もある反面、計画の立てようもないほど個体数の少ないもの、近親繁殖や亜種間雑種などさまざまな問題も提起されました。

午後からはこれら15種以外の種について、類別報告という形で昨日の類別会議の内容をまとめて、各類別調整者より報告がありました。

今回の会議では北海道大学・動物染色体研究施設の阿部周一助教授に『タンチョウのミトコンドリアDNA解析』を特別報告として行っていただきました。これは数年前より問題となっている釧路産と中国産のタンチョウが亜種として違うのかどうかということ、DNA解析で答えを出そうというもので、この2年間の研究成果を中間報告ということで行って戴きました。また特別講演としては近畿大学生物理工学部の細井美彦助教授に『希少動物への最新繁殖技術の応用』ということで、畜産分野で既に確立されている人工授精や体外授精、顕微授精、受精卵移植などの最新の繁殖技術の紹介とともに、この技術を絶滅の危機にある希少動物への繁殖につなげられないかということ、講演していただきました。

殿下は午前9時から最前列に座られて、各種報告、特別講演などを我々出席者と共に、興味深く耳を傾け、時には熱心にメモを取っておられるのが印象的でした。午後4時に殿下がご退席の後、本会議での決議が採択され、目が回るような忙しさと特別の緊張に包まれた会議を無事に終

結することができました。ちなみに私の体調は二日目に最悪になり、完全回復には1か月を要しました。多忙と緊張のストレスは、我が身の保存を危うくするというのを痛感した次第です。

(飼育課：宮下 実)

オシドリ
Aix galericulata

たいへん美しいカモとして日本画などにもよく登場します。アジア東部に分布し、日本では信州などで繁殖しており、冬には近畿地方でも見られます。



オナガガモ
Anas acuta

尾羽の中央の2枚が長くのびているのでオナガガモと呼ばれています。ユーラシア大陸北部や北アメリカで繁殖し、冬には日本にもたくさん渡ってきます。(左はメス)



ヒドリガモ
Anas penelope

頭と首は赤茶色で頬から頭の中央へ淡黄色の帯が入っています。ユーラシア大陸の北部で繁殖し、冬には日本各地に渡ってきます。

スズガモ
Aythya marila

頭から胸と尾が黒色で、腹が白く背が灰色をしています。北ヨーロッパや北アメリカで繁殖し、冬の日本では海で大群になっています。



グラフZOO
冬はカモたちの季節

寒さが厳しくなる季節になると、カモ類のオスは求愛時期をむかえ美しい羽根に変わります。今回は“鳥の楽園”の美しくなったカモ類をご覧ください。

(撮影：土谷 正道)



ホンケワタガモ
Somateria mollissima

ツンドラ地帯で繁殖し、冬は海ですごします。巣には多量の綿羽をしきつめるので、人間はこの羽毛をダウンとして利用してきました。

ミコアイサ
Mergus albellus

小形のカモで、主に魚を食べています。ユーラシア大陸北部で繁殖し、日本では一部が北海道で繁殖する以外は冬鳥として渡ってきます。



キタホオジロガモ
Bucephala islandica

日本で冬に見られるホオジロガモに似ていますが、ホオの白い部分が三日月状をしている点が違います。北アメリカやアイスランドに分布しています。

獣医室から

61

『白内障が治ったぞ!』

チンパンジーの“シュジー”（メス）はドイツのハーゲンベック動物園から、昭和26年5月、2歳の時に当園にやって来ました。当時は戦後まもない頃とあって、“シュジー”のお目見えは市民の大きな歓迎を受けました。戦前、“リタ”というメスのチンパンジーがおり、その名演技で大阪市民を、いや日本国中を魅了したのですが、その“リタ”の面影を慕ってか、この来園も大きな注目を集めていたわけです。竹馬や自転車乗りなど数々の演技を習得しそれを披露するに及んで、“シュジー”の名声は近隣にも鳴り響き、時には市長の代理として福井市の復興博覧会へ出張した



昭和28年4月の衆参ダブル選挙の時の公明選挙を訴えるシュジー

り、浜寺海水浴場で泳いだりとかで大活躍したことが当時の新聞に掲載されています。

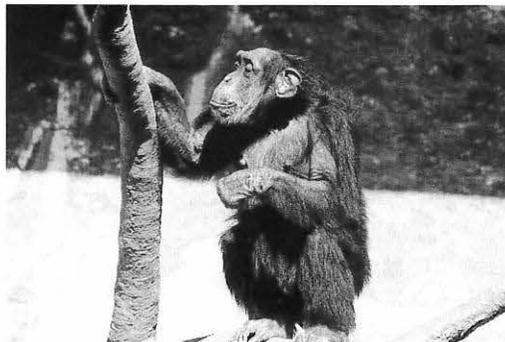
しかし年頃となってきたために昭和39年、ステージ活動から引退することになり、翌年に完成した類人猿舎に引っ越し、年若いチンパンジー達と一緒に暮らすことになりました。ところが44年頃より視力に障害が認められるようになったため、屋外の堀に落ちては危険だということ、屋内の部屋で1頭だけで飼育されることになりました。当時20歳とまだ若いにもかかわらず、この時“シュジー”は眼の水晶体が白濁する白内障にかかっていたのです。以後、人前に出ることもなく、1頭だけでひっそりと“隠居部屋”で過ごしてきました。

昭和51年、“シュジー”のために水晶体を摘出する白内障治療手術が検討されました。眼科のお

医者さんとも相談し、手術を実施する直前まで話が進んでいたのですが、中止になりました。その理由は老化著しい“シュジー”が麻酔や手術に耐えられる体力があるかどうかということと、一番の問題は、手術の後治療でした。術後は絶対安静で、特に抜糸がすむまでは眼を触らせてはいけないというものでした。つまり術後は両手両足を縛りつけて拘束状態におかねばならないということです。とても寝姿などにできるわけもなく、悔しい思いをしながら手術を断念したことを、昨日のこのように覚えています。

ところが一昨年の春、チンパンジーの定期検診の時、いままで白く濁っていた“シュジー”の瞳がきれいに透過しているのを確認した時の驚きは、例えようもありませんでした。検診前から、瞳がきれいになってきており眼が見えるみたいだ、という報告を飼育担当者から聞いておりましたが、白内障が自然に治癒するはずもないのにと感じていたのですから、検診に立ち会った獣医師一同、驚いてしまいました。

その年の9月に新築のチンパンジー舎に引っ越ししましたが、この施設には“シュジー”用にと、隠居部屋をサンルーム仕立てにしていました。しかし視力に問題がないのに、あえて奥に収容しておく必要もないだろうと、昨年8月から屋内展



昨年11月に25年ぶりに日なたぼっこを楽しむシュジー

示室で、一般公開を始めました。実に25年ぶりの入園者との対面は“シュジー”にとっても大きな喜びだったことでしょう。視力の回復にあわせながら、昨年11月からは天気の良い休園日に屋外の放飼場に出してやることになりました。25年ぶりに屋外に出した日は、よほどうれしかったのか、木に登ったり歩き回ったりと、大はしゃぎで、数年前までの目の不自由だった時の動きとは雲泥の差でした。

“シュジー”も44歳ですから歯もかなり抜け落ち、白い毛も目につきますが、他のチンパンジーには見られない威厳が感じられます。なにしろ日本一の高齢チンパンジーであり、チンパンジーの長期飼育の日本記録を更新しているのですから大したもの。これからもまだまだ長生きして元気な姿を見せてほしいものです。

ところで白内障はなぜ治ったのでしょうか。明確な答えは出せませんが、20年以上の長期にわたって直射日光に当たらなかったことと因果関係はないのでしょうか。（飼育課：宮下 実）

- 12/1. 11月27日に生れたホッキョクグマの赤ちゃんの鳴き声は今日も元気に聞こえました。
- 12/2. 第41回動物園技術者研究会が白浜アドベンチャーワールドで開催され、当園から2名が参加しました。
- 12/6. 横浜市野毛山動物園から借用していたブラジルバクの子を愛媛県立とべ動物園に搬出しました。これは飼育していたオス、メスが父娘関係で、メスが性成熟の年齢に近くなり、近親交配を防ぐため、血縁関係のないメスを導入することになったためです。
- 12/7. “鳥の楽園”（バードケージ）でシュモクドリの雛を2羽を確認しました。
- 12/8. 横浜市野毛山動物園所有の愛媛県立とべ動物園生れのブラジルバクの子が入園しました。ブリーディングローン（繁殖を目的とした貸与）によって借り受けたものです。
- 12/10. キーウィの“プクヌイ”が3卵目を産卵しましたが、残念ながら破卵していました。

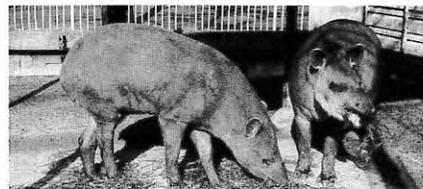
12月12日 動物園裏側ウォッチングを開催しました。来園者から参加希望を募り約40



名の方々が、普段見ることのできない動物舎の裏側や調理場、動物病院などを見学しました。

ゴイスギを1羽保護しました。

12月13日 12月8日に入園したブラジルバクの子の検疫・見合いが終わったので、オ



ストとの同居に入りました。見合とは違ってメスをより身近に感じるのか、早速オスがメスの後を付いて回っていますが、目立った闘争もなく相性はいいようです。

アムールトラの父親と母仔の同居展示



を始めました。寝室で檻越しに見合をしてきた結果が良好であり、父親の性格も温和であることから同居展示に踏切ったものです。

今月もおもしろ情報満載

ZOO DIARY

- 12/13. フクロウを一羽保護しました。
- 12/16. 11月27日より介添哺育していたヤギとトカラヤギの母仔を展示場に戻しました。
- 12/17. ダチョウのオスが跛行していたので治療を始めました。
- 12/19. ホシハジロのオスを1羽保護しました。
- 12/20. 10月12日に骨折し、手術後隔離していたブラックバクの子が良くなったので、群に戻しました。
- 12/21. オオルリのオスを1羽保護しました。
- 12/23. ゴイスギを1羽保護しました。

12月24日 “鳥の楽園”でアフリカヘラサギの雛を確認しました。他園での繁殖例はあ



りますが、当園では初めてのことです。南側の支柱の中段で営巣・育雛しており、第3ウォッチングコーナーからご覧になれます。

当園では毎年、その年の干支にちなん



で獣舎の前にしめなわを飾っています。今年はいぬ年なので、オオカミ舎前にしめなわを飾り、新年を迎える準備をしました。

- 12/25. ホシハジロのメスを1羽保護しました。
- 12/29. 走鳥舎で展示しているエミューがこの繁殖期最初の卵を産みました。
- 12/30. “鳥の楽園”で展示しているハワイガンが今季最初の卵を産みました。

■お知らせ■

- 動物園のおじさんのお話
「トラウォッチング・バードウォッチング」
日時：2月20日(日) 午後1時～
場所：トラ舎・鳥の楽園（バードケージ）
- テレフォンサービス 06-771-9999

愛ある暮らし、応援します。

Kintetsu

近鉄百貨店

DEAR LIFE BOOKS



生態・飼育・図鑑が一つの本の 中にギッシリ

中川道朗・岩合徳光／監修
B5変型判・オールカラー
定価680円

動物園で暮らす様々な生き物達、
自然の中ではどんな暮らしをして
いるのか？ 動物園での世話
の仕方は？ 仲間とは？ など、
写真と精密イラストをまじえ紹
介します。

＜くらしとかいかたシリーズ＜既刊本＞
B5変型判・オールカラー・各定価680円

むしくらしと かいかた

野山でみかける身近な昆虫たち
250種を紹介。

ちいさないきものくらしと かいかた

昆虫以外の小さな生き物を320
種紹介。

お求めは、お近くの書店で。

☆ ぴかりのくに株式会社 本社／〒543 大阪市天王寺区上本町3-2 ☎06-768-1151代表



マスターのポップコーン



〈営業品目〉 製造機械・保温機 他
生コーン・袋詰ポップコーン・原材料一式

(株)増田食品 〒561 大阪府豊中市穂積1-10-30
TEL (06) 865-0165

オートフォーカスカメラに

フジカラー SUPER HG 400



ピントが合いやすいフィルムです

カメラの大林

桜橋本店 ☎341-8091
阪急三番街店 ☎372-5031
OHVAC店
(ギャレ大阪) ☎346-7606

動物の生態を描く唯一の文学雑誌

動物文学

昭和九年平岩米吉によって創刊

本誌は生態研究を基礎として動物文献を収集整理する
とともに、シートン、ザルテン、バイコフ等の諸作家
を紹介した本邦動物文学の母胎です。

〈研究・考証・記録・随筆・翻訳等を掲載〉
会費／年1,500円(切手72円・呈既刊号目次)

動物文学会

〒152 東京都目黒区自由が丘3-12-2 電話03(3717)1659・振替・東京5-9800

新作
貸出用ビデオ「楽しい天王寺動物園」
19分(10本常備)

- 対象／保育園・幼稚園・小学校の先生
- 貸出期間／10日間
- 貸出料／無料(但し郵送料480円は必要)
- 申込先／当協会まで手紙かハガキで
お申込下さい。

コアラテレホンカード(限定販売)
好評発売中 ¥800(50度用)

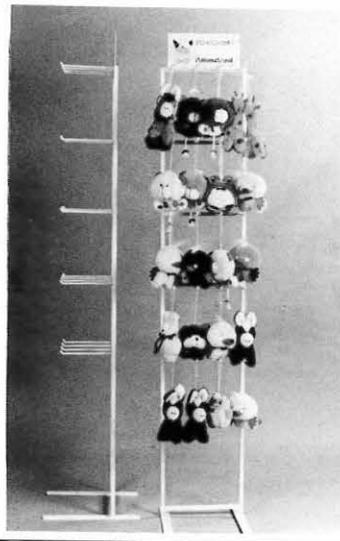
天王寺動物園の本
入園の記念・手引に……



オールカラー
500円

園内売店にあります。

大阪市天王寺動物園協会 〒543 大阪市天王寺区茶臼山町6-74 ☎(06)771-0201

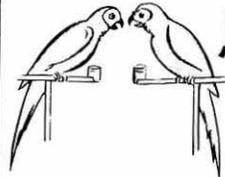


動物ぬいぐるみは 子供のゆかいなお友達

各種ぬいぐるみ企画・製造・卸

有限会社 **アニメランド**

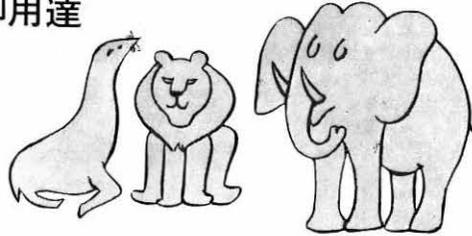
〒547 大阪市平野区西脇4丁目5番22号
TEL: (06)704-8580
FAX: (06)704-8565



鳥獣輸入

全国動物園水族館御用達

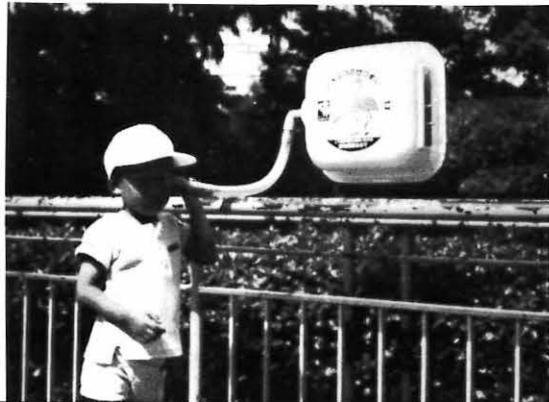
- ・医学実験用動物
- ・宣伝用、テレビ用、貸動物
- ・原色世界雑類図鑑(34種1枚もの)要郵便券250円



有限会社 吉川商会

本社 神戸市中央区中山手通3丁目11番4号 電話(078)221-8195(代)
飼育場 兵庫県小野市来住町1513番地

たのしい動物のお話は、 ガイドマシン(動物説明機)で、どうぞ!!



園内、主要動物舎
30数ヵ所にあります

関西特機株式会社
電話 06-762-2333
1回 20円

動物園内での お食事、 ご休憩は

動物園内.....

中央売店

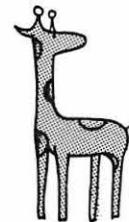
TEL 06-771-0973



お食事・飲み物・おみやげ 動物園内 南園売店 TEL 06-771-7110



園内での写真は... 動物園協会指定写真部へご用命下さい!!



◎随時係員が待機して
おりますのでご説明
に伺いました際は、
よろしくお願ひ致し
ます。

カラー写真 キャビネ1枚 500円

撮影無料にてキャビネ1枚をサービスさせて戴きます。
撮影予約も受付しておりますのでご連絡下さい。

国際航空写真株式会社
TEL 06-856-7444



雪印

Our Yogurt has fruity
and rich texture!!



はまりたてミルクのおいさが、生きている。

雪印
オガール

希望小売価格 130g/各120円 250g/各220円(税別)



“生イキヨーグル”と
覚えてね。

HIJIRI-KOJIMA

一日
愉快地
たのしめる!!



◎園内3ヶ所(南園高架下・北園中央デッキ北側・北園高架下)に各種のりものがあります。

久竹娛樂株式会社
TEL(06)541-3938(代)

なきごえ

1994年2月10日発行(毎月10日発行)第30巻 第2号(通巻342号)

編集/大阪市天王寺動物園事務所

発行人/大阪市天王寺動物園協会 土井良彦

印刷所/株式会社 松村善進堂 定価150円(送料共) 1年継続(12部) 1,650円(送料共)

〒543 大阪市天王寺区茶白山町6-74

電話 大阪 (06) 771-0201

振替口座 大阪 3-37823

編集委員

(中山良三郎/岩倉善樹/中尾啓一/樽本 勲/中川哲男/吉本昌俊/山根和弘/谷森 進/宮下 実/長瀬健二/榊原安昭)
(森本委利/竹田正人/永田健一/前田 茂/大野尊信/野口秀高/早川 篤/堀内智生/村上勇一/土谷正道/仁田原洋)